

**平成29年度  
食品ロス削減のための  
商慣習検討ワーキングチーム**

**納品期限緩和及び年月表示の  
効果測定**

2018年3月6日  
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社  
カスタマーマーケティングディビジョン SCM部





# 効果測定方法

---

## ◆ 納品期限緩和による効果測定

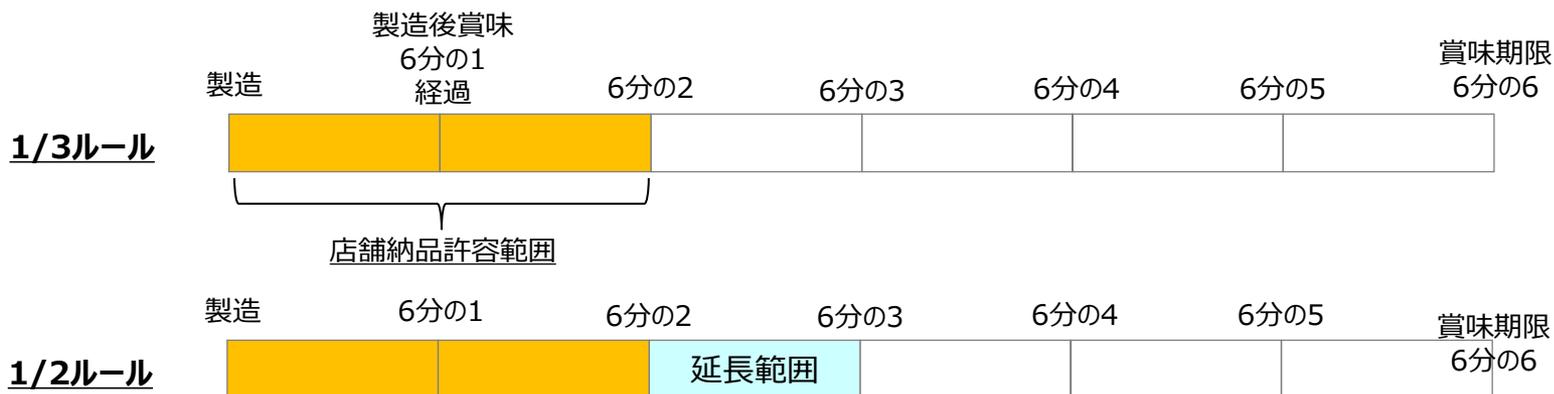
- ✓ 効果試算方法1 1/3ルール～1/2ルール未満で出荷した数量
- ✓ 効果試算方法2 返品在庫の推移 緩和前と緩和時
- ✓ 対象チャネル CVSチャネル

## ◆ 年月表示による効果

- ✓ 店舗内オペレーションの軽減
- ✓ 倉庫内オペレーションの軽減
- ✓ 在庫の有効活用 ⇒ 食品ロス削減に影響



# 効果試算1(1/3以上~1/2未満で出荷した数量)



## 本来提出したい納品期限延長効果算出データ

共配センターから店舗への納品において延長範囲(上記水色箇所)に該当する製品の納品実績



## 今回の提出データ

コカ・コーラ出荷拠点から共配センターへの納品において延長範囲(上記水色箇所)に該当する製品の納品実績





# 納品期限緩和時の効果調査結果 1&2

- 調査対象チェーン CVSチャンネル
- 調査期間 1年間
- 調査内容 納品期限緩和効果(1/3ルール以上、1/2ルール未満でメーカーからカスタマー専用DCへ出荷した数量)
- カスタマー専用DC返品推移 緩和前と緩和後

## ■ 1/3ルール以上、1/2ルール未満でカスタマー専用DCへ出荷した重量&比率

| 賞味期限   | 主なカテゴリー  | 総出荷に対する<br>救済割合 | 救済数比率   | 重量(t)        |
|--------|----------|-----------------|---------|--------------|
| 5-7ヶ月  | 炭酸、加温ペット | 1.59%           | 60.83%  | 4,138        |
| 8-11ヶ月 | 緑茶、スポーツ  | 0.74%           | 31.57%  | 2,147        |
| 12月以上  | コーヒー、水   | 0.15%           | 7.60%   | 517          |
| 計      |          | 0.76%           | 100.00% | <b>6,802</b> |

## ■ カスタマー専用DCからの返品率推移(一部大手チェーン)

| 年度                     | 返品比率         | 納品期限状況          |
|------------------------|--------------|-----------------|
| 2014年(2014/04~2015/03) | 0.85%        | 1/3(緩和前)        |
| 2015年(2015/04~2016/03) | <b>0.63%</b> | <b>1/2(緩和後)</b> |
| 2016年(2016/04~2017/03) | <b>0.61%</b> | <b>1/2(緩和後)</b> |



# 年月表示の効果 納品ルール

- 納品期限の厳守
- 賞味逆転商品の納品禁止



お取引に納品した賞味期限より  
同日以上の賞味期限を納品すること



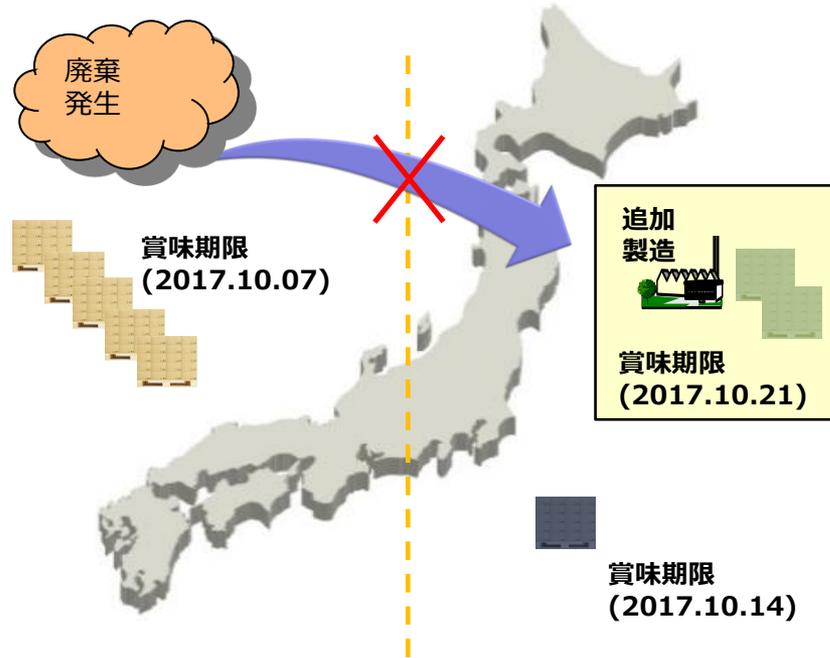


# 年月表示の効果 在庫の有効活用

エリアの在庫偏在が生じたときに東西間の融通が可能となるため、廃棄削減に繋がる

## 「日付表示」の際の運用について

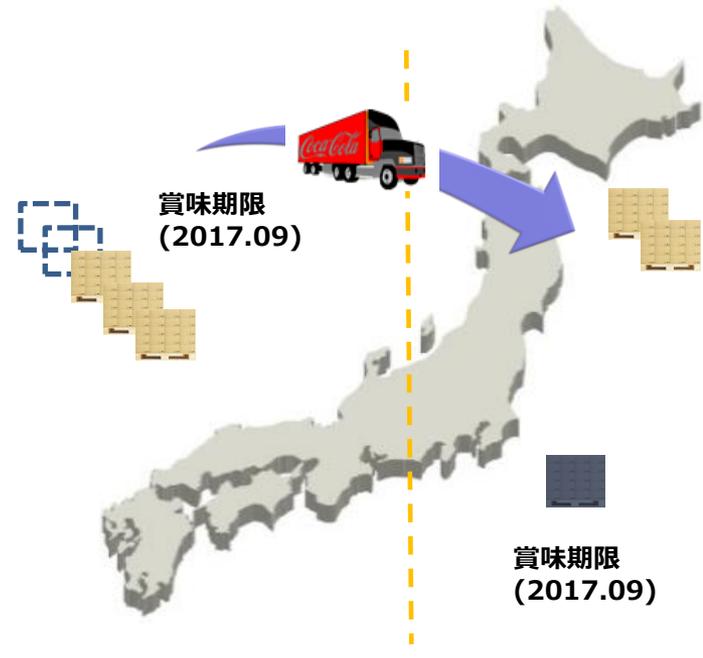
- 賞味期限が逆転するために東西間の融通が**不可能**である
- 結果、東日本で新たに製品の製造を行い、西日本の在庫は、**廃棄**となる



東西間の融通が出来ない為、廃棄が発生する

## 「年月表示」の際の運用について

- 賞味期限が同一となるため東西間の**融通が可能**となる
- 西日本の在庫を東日本に移管を行うことで、新たな製造が不要となり、また西日本の在庫の**廃棄も防げる**



東西間の融通出来る為、廃棄が発生しない



# 年月表示の効果 在庫の有効活用

日別の賞味期限管理から年月表示は以下のメリットがある。

- ✓ 在庫移動のフレキシビリティ
- ✓ 廃棄在庫の抑制

東日本



西日本



賞味期限  
✓ 年月表示  
✓ 統一

在庫量



- 東日本は在庫不足、西日本は在庫過多
- 西日本から東日本へ在庫移動は、賞味期限が逆転するため不可
- 東日本は新たに生産する必要がある。
- 終売日までに在庫が消化出来ず、廃棄の可能性はある

- 年月表示なので、東西の在庫移動及び廃棄在庫を抑制出来た。



# 年月表示の課題

生産日のタイミングによって本来有する賞味期間が短くなる課題も出ている。

【前提条件】

✓ 賞味期間は1年間

| 年月表示<br>賞味期限 | 2017年11月    |             |             |             |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|              | 生産日         | 2016年12月1日  | 2016年12月11日 | 2016年12月21日 |
| 本来の<br>賞味期限  | 2017年11月30日 | 2017年12月10日 | 2017年12月20日 | 2017年12月30日 |
| 短くなる<br>日数   | 0日          | 10日間        | 20日間        | 30日間        |

最大30日間 賞味期間が短くなる

年月表示を進めるには納品期限緩和は必要<sup>7</sup>条件となる。